

2017年(平成29年)

11/25

No. 1140

# 東京都トラック時報

昭和43年8月16日 第三種郵便物認可 毎月2回(10・25日)発行 1部 90円(送料別)

機関紙

一般社団法人  
発行所 東京都トラック協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-8

(東京都トラック総合会館)

☎(03) 3359-6251 (代表)

☎(03) 3359-4134 (広報部)

【ホームページアドレス】http://www.totokyo.or.jp/

## 「広域防災拠点」実現へ支援要請

千原会長 圏央道周辺に集積施設を

### 東ト協 都が30年度予算 要望ヒアリング

東京都トラック協会の千原武美会長をはじめ各副会長は11月14日、東京都の平成30年度予算に関する小池百合子都知事による要望ヒアリングに出席し、千原会長は特に「首都直下地震における緊急輸送支援システムの再構築」と、東ト協が構想している「圏央道周辺の平屋建て集荷集積施設に対する支援」を要請した。小池都知事は東ト協の提案・構想に対し、首都機能を守るとともに、都民の安全・安心を確保する上で「大変重要な指摘をいただいた」と高く評価し、支援・協力する考えを示した。



小池都知事(右)に要望する千原会長

東ト協は小池都知事による要望ヒアリングに際し、都に対する30年度特別要望書を提出したが、千原会長は「このうち防災関係の要望事項2点に絞って説明し、実現に向けて支援を要請した。」と述べた。

### 小池都知事「大変重要な指摘」と評価

このため、外縁部の「圏央道(首都圏中央連絡自動車道)周辺に広域防災拠点として平屋建て集荷集積施設を建設し、都内に支援物資を運ぶようにするのが効果的」とその必要性を説いた。

また、9月に開催した関東トラック協会事業者大会で、東ト協をはじめ1都7県トラック協会が「災害時の相互支援に関

する協定」を締結したことを説明。首都直下地震では都内のトラック事業者自体が被災するため、相互支援・協力により広域的に車両・人員を確保する必要があるとし、こうした業界の協定などを踏まえて、緊急輸送支援システム再構築について検討するよう要請した。



あわせて、再構築に当たって必要となる広域防災拠点として、東ト協が構想している圏央道周辺における平屋建て集荷集積施設建設に対する支援と協力を求めた。

千原会長は、東日本大震災の際、支援物資輸送で大きな効果を発揮した岩手県の「アピオ」(岩手産業文化センター)を例に挙げ、新たな広域防災拠点の必要性を改めて指摘。さらに「平成28年熊

本地震」の教訓を踏まえ、既存拠点が被災することにも想定されることから、「複線的な体制でバックアップする、相互補充の拠点整備がリスクマネジメントの上で重要」と強調した。

その上で「第一義的には行政で整備をお願いしたいが、東ト協は社会的使命感を持つて建設を検討している」と述べ、支援を要請した。

都に対する特別要望書では、防災関係の要望事項(圏央道周辺における集荷集積施設の用地取得に対する資金の「無利子貸し付け」など)に加え、運輸事業振興助成交付金の基本理念に基づく交付額措置、労働力不足対策や長時間労働抑制に向けた補助・助成の拡充、駐車規制の緩和と駐車場所の確保、高速道路料金金の大口・多頻度割引最大50%の恒久化、環境対策としてグリーン・エコプ

### 大口割引最大50%の継続 「働き方改革」支援策を

東ト協

要望の最重要事項を中心に説明した。特に税関関係では、自動車税に

東ト協は11月13日、自民党東京都支部連合会(鴨下一郎会長)に対し、高速道路料金金の大口・多頻度割引最大50%の継続など、平成30年度税制改正・予算に関する要望書を提出し、その実現を要請した。

この後、税制金融委員長、岸澤武春副会長が、全日本トラック協会、本都トラック協会、冒頭、千原会長があい



### 自民党都連に要望

を訴えるとともに、予算関係では30年3月末で期限切れとなる、大口・多頻度割引最大50%の継続を強く求めた。さらに、長時間労働抑制に向けて「働き方改革」を推進し、時間外労働の上限規制に対応するための補助・助成の創設・拡充を要望した。

あわせて、東京都に要望している「首都直下地震における緊急輸送支援システムの再構築」について説明し、支援を要請した。

### セーフティ・アワード2017

コンテスト入賞者を表彰



東ト協

東ト協運輸安全委員会(江森委員長)および広報・情報委員会(竹ノ内実委員長)は11月11日、港区のヤクルトホールで、「セーフティアワー

ド2017」を開催し、ベストドライバーコンテストや「トラックの日」児童絵画作品コンテストなどの表彰式を行った。今年度から新たに実施



江森委員長



千原会長

した各コンテストの表彰とあわせ、警視庁交通部主催の平成28年度セーフティドライバーコンテスト(SDコンテスト)優秀支部表彰を行ったもので、入賞したドライバとその家族、および児童とその保護者を含め

た約220人が参加した。第1部では、運輸安全委の鈴木三津雄副委員長による開会の辞に続き、千原武美会長が主催者あいさつ。トラックが「生活と産業に欠かすことができない、あらゆる荷物を運んでいる」と話し、重要な役割を担っていることを強調した。

また、来賓として東京運輸安全委の江森委員長と警視庁交通部交通総務課の金子賢司管理官があいさつした。

第2部では警視庁のマーク・スコット「ピーポくん」による交通安全教室を行い、第3部で各コンテスト入賞者などは5面

### 軽油の価格

|             |           |
|-------------|-----------|
| ☆スタンド       | 平均=100.7円 |
| ☆ローリー       | 平均=91.7円  |
| ☆元売り発行カード   | 平均=99.7円  |
| ☆ディーラー発行カード | 平均=95.7円  |

10月分の  
軽油価格  
(東ト協調べ)

### 紙面あんない

国交省、過積載の荷主対策を強化  
全ト協・景況感調査7~9月期  
東ト協、広報・情報委員会を開催  
東ト協「セーフティ・アワード」  
関運局・29年陸運従事者局長表彰

7 5 4 3 2

古紙パルプ含有率80%再生紙を使用



全ト協が  
景況感調査  
7～9月期



## 判断指標 6.5ポイント改善 運賃・料金は上昇傾向

### 次期やや悪化の見込み

全日本トラック協会の第99回「トラック運送業界の景況感調査結果(7～9月期、速報)」によると、依然として労働力の不足感が高い状況にあるが、一般貨物の輸送数量・営業収入などが改善し、景況感の判断指標は▲(マイナス)12・7で前回(4～6月期)より6・5ポイント改善した。

一般貨物の指標は、輸送数量が▲0・6で前回比5・3ポイント上昇し、営業収入は2・0で同5・7ポイント改善してプラスに転じた。営業利益も▲12・3と同5・4ポイント改善した。

一方、宅配以外の特別積合せ貨物は、輸送数量が34・0で同28・9ポイントの大幅な上昇となり、営業収入は30・2で同7・1ポイント上昇した。ただ、営業利益は▲3・8で同8・9ポイント悪化し、マイナス水準となった。

宅配貨物では、輸送数量が3・6で同0・6ポイントを下げたが、営業収入は0・0で同12・5ポイント改善した。営業利益は▲14・3で同35・7ポイントの大幅な改善となった。

実働率の指標は全体で同7・2ポイント改善し▲0・5まで戻した。実車率は同6・0ポイント改善し▲0・7となった。雇用状況(労働力の過不足)は不足感が高い水準にあり、81・5で同0・2ポイント上昇した。

こうした状況を背景に、運賃・料金水準は上昇傾向。一般貨物の指標は7・4で同5・7ポイント、宅配以外の特積貨物も50・9で同15・0ポイント上昇。宅配貨物は前回のマイナス水準から一転して72・1ポイント改善し、67・9となった。

ただ、10～12月期見通しでは、景況感の判断指標は▲13・8で今回より悪化する見込み。

## 点描 運輸

### 健康起因の事故防止

国土交通省は、早ければ年内にも「自動車運送事業者のための脳血管疾患対策ガイドライン」(仮称)を策定する。くも膜下出血や脳内出血といった脳血管疾患を防止するため、脳検診の受診を促進し、その結果を踏まえて事業者が取るべき対応を分かりやすく記載する。SAS(睡眠時無呼吸症候群)に続いてガイドラインを定め、増加傾向にある健康起因事故に歯止めをかける狙いだ。

自動車事故報告規則に基づき、運送事業者が提出した運転者の健康起因事故報告件数は、健康起因事故に対する事業者の意識が高まっていることもあり、平成28年は304件と前年より25%も増加し、13年の調査開始以来、最多となった。

交通事故に至らなかったものが大半を占めるが、約3割に当たる88件は、運転中に意識障害などを起こし、運転操作が不能となった。報告のあった304件を業種別にみると、乗合バスが143件で最も多く、前年比32%の増加。次いでトラックが同36%増の75件、タクシーが同10%増の68件となっている。

乗合バスの報告のうち134件は、衝突・接触がなかった事案だが、トラックの場合、衝突・接触を伴う事案が同21%増の40件も発生しており、貸切バスを含めた4業種の中で最も多い。このうち34件は運転者以外に死傷者が生じていないが、6件は運転者以外にも死傷者が出ている事故だ。トラックの年間報告件数75件のうち、運転中の運転操作不能は39件で、これも4業種の中で最多だ。これら統計からみても、トラック運転者の健康起因事故の発生状況が深刻であることが分かる。

## 脳疾患対策で指針策定へ 事業者の対応策など記載

このうちトラックの事案39件についてみると、脳疾患が41%に当たる16件を占め、心臓疾患が28%の11件、残る12件はその他となっている。

国土交通省では、「事業用自動車運送事業者の健康管理マニュアル」を定め、人間ドックや脳ドックなどのスクリーニング検査の受診を推奨し、SASについてはガイドラインを策定し、より積極的な検査受診を求めている。

昨年12月、超党派の「運転従事者の脳MRI検査推進議員連盟」(会長「二階俊博自民党幹事長」)が中心となつて法改正が行われ、運送事業者に対して運転者の疾病運転防止対策を義務付けた。

こうした法改正を背景に、国土交通省は脳疾患対策のガイドラインづくりを乗り出したものだ。同省が昨年実施した調査結果によると、脳MRI検査の受診率は、4業種の中で最も高い乗合バスでも24%、貸切バスでは10%、タクシーでは4%にすぎず、トラックに至っては3%と極めて低い。事業者は受診の必要性は感じているが、それにもかかわらず受診させていない理由は「検査費用が高額」との回答が最も多い。また「人員配置上、受診させる余裕がない」という回答も多かった。

脳ドックの費用は、検査項目によつて違いはあるが、3万～6万円程度が相場といわれる。簡易なMRI・MRA(磁気共鳴血管画像)検査だけでも2万～3万円かかる。

受診促進には補助制度などの充実も欠かせないが、検査を普及させていくには、低廉な費用負担で検査を受けられる仕組みづくりが必要ではないか。

(ジャーナリスト 伊集院 豪)

## 自家用の燃料供給 施設整備支援助成



全ト協

全日本トラック協会は、平成29年度「自家用燃料供給施設整備支援事業助成金」の追加募集を行う。追加募集の受付期間は12月1日から28日まで。

## 追加で募集へ 12月1～28日

助成予算額は2000万円(予算額に達した時点で受付終了)。助成額は、軽油タンクの新設100万円、増設30万円。燃料の安定的な確保を

目的に、会員事業者および事業協同組合・同連合会が、自家用燃料供給施設の新設もしくは増設、または増設を伴う代替を行う場合、各都道府県トラック協会を通じて費用の一部を助成するもの。

主な助成要件・助成対象は、30年2月28日までに各市町村から危険物取扱所の完成検査済証の交付を受け、当該設備の支払いを完了するもの。

今年度および過去に助成を受けている場合は、対象外。

東京都トラック協会の会員は、東ト協で申請を受け付ける(申請は郵送、または事前連絡の上、持参により提出)。なお、

## LEVO 低炭素型ディーゼル車 普及加速で補助

環境優良車普及機構(LEVO)は、平成29年度「二酸化炭素排出抑制

対策事業費等補助金(低炭素型ディーゼルトラック普及加速化事業)について、11月15日(同日付消印を含む)以降に受け付けた申請は、募集期間の終了後に、一括して審査し交付決定を行う。

LEVOはこれまで、補助申請を受付順に審査し、交付決定していたが、10月から補助台数制限を

## 11月15日以降の 申請、一括審査

これに伴い、11月15日以降に受け付けた申請については、募集期間(30年1月31日まで)終了後に一括して審査することにした。

申請が補助予算残額を超えた場合、抽選により交付決定を行う。なお、詳細は、LEVOホームページを参照。

詳細は東ト協ホームページを参照(書類様式をダウンロード可能)。

▽申し込み・問い合わせ先 東ト協企画課(〒160-0004新宿区四谷3の1の8、☎03・3359・6253)

1事業者10台までに緩和したことなどから、補助予算残額が2割程度まで減っている。

詳細は、同省ホームページなどを参照。

## ハイブリッド・CNG車補助 交付予定枠2次募集 11月30日まで

国土交通省は、平成29年度「低公害車普及促進対策費補助金」による優良ハイブリッド・CNGトラック導入補助について、交付予定枠申請の2次募集を行っている。

受付期間は11月20日から30日まで。補助申請に先立ち、補助金の交付予定枠を申請し、事前に内定通

料金支払だけから、運転支援へ

YAZAKI

**ETC2.0**

予約受付中!

矢崎エナジーシステム 特約販売店

**世田谷サービス株式会社**

本社 03-5727-1600  
板橋(営) 03-5916-3557  
ホームページ <http://www.setagaya-yss.co.jp>  
E-mail: postmaster@setagaya-yss.co.jp

広報・情報委員会



来春の新入学児童用  
下敷きデザイン決定

報活動を展開していき「い」と述べた。

この後、HPリニューアル案を審議。小委員会での検討を踏まえて、受託会社が提案した企画案について説明し、採用案の選考に入った。

審議の結果、トップページのキービジュアルとして、トラック輸送が「安全・安心」とともに、輸送を通じて「笑顔」を届ける役割を担っていることをアピールする企画案を、ベース案として採用した。

今後、他の企画案で示されたビジュアル案やキャラクターの中から、児童たちに親しみやすいキャラクターが、交通安全や交通ルールの遵守を呼びかける内容のものを選定し

より利用されるHPへ  
リニューアル企画案選定

東京都トラック協会広報・情報委員会(竹ノ内実委員長)は11月9日、東ト総合会館で平成29年度第2回委員会を開催し、ホームページ(HP)のリニューアル案を審議し、ベースとなる企画案を選定した。今後、広報・情報小委員会(石井大作

東ト協  
中央・千代田・港支部  
三組織合同研修会



労務問題対策テーマに

東ト協中央(中川卓三支部長・千代田(原島藤壽支部長)・港樋口恵一支部長)3支部と各支部三組織は11月9日、中央区のコートヤード・マリOTT銀座座東武ホテルで、合同

研修会を開催した。同日はまず、今回の幹事支部である中央支部・ロジステイクス研究会部長の半田一恵副支部長が、開会のあいさつ。合同研修会では引き続き、北川綜合法律事務所・代表弁護士北川祥一氏とAOSリーガルテックeLaw事業本部マネージャーの森田善明氏が、「IT時代の労務管理・紛争管理と予防法セミナー」最新端証拠収集手法の労務関連問題等への応用」と題して講演。近年、事業経営者が適切な対応を求められている、未払い残業代請求や、いわゆるセクハラ・パワハラ問題など、労務関連問題の現状と対策について、法的側面と技術的側面から解説した。特に訴訟となった場合には客観的な証拠が重要になるとし、IT活用による最先端の証拠収集方法などについて紹介した。講演終了後、中央支部・ロジ研副部長の下川悟副支部長が閉会のあいさつを行った。

東ト協大田支部(松原伸行支部長)は11月4日、大田区「OTA(おおた)フェスタ2017」に参加し、会場内「太陽のエリア」(平和島公園)で、交通安全教室を開催した。「トラックの日」PRイベントの一環として毎年、行っているもの。大田区の後援 大森警察署および大森・蒲田・池上・田園調布各交通安全協会、日本自動車連盟

東ト協  
大田支部  
交通安全  
教室

トラック左折巻き込み事故再現



(JAF)東京支部の協力により実施した。冒頭、松原支部長があいさつ。トラック運送業者は「必要なものを必要時に届けるため、日夜、左折時の巻き込み事故な

事業を行っていると述べ、その上で業界は「事故防止に取り組んでいるが、歩行者や自転車と一緒に協力し、事故のない社会を目指していきたい」と呼びかけた。交通安全教室は、スタン



労働力不足への対応策  
IT機器の展示会も



「高酸素吸引による輸送と身体障害について」と題して講演した。同日は、自動配車システムやトラック専用ナビゲーションなどのIT機器展示会が同時開催され、出展各社が導入効果や成功事例などについて説明した。

第3回 経営者実務セミナー

東ト協は11月7日、東ト総合会館で、平成29年度第3回経営者実務セミナーを開催した。前回と同様のテーマで、「人材・労働力不足への対応につ

た。今後、選定に当たって提起された意見などを踏まえ、調整した上で、最終案を固める方針。さらに、30年度広報事業の計画・予算案について審議。特に、テレビ・ラジオCMによる広報活動のあり方をめぐって意見交換した。あわせて、来年度の広報事業に関する各委員の意見・要望を12月上旬までに集約する予定だ。

協会  
日誌

【11月15日】

- 2日 関ト協青年部会研修見学会▽トラック事業者と荷主とのパートナーシップ構築セミナー
- 3日 女性部トラック協会女性経営者交流会
- 4日 物流経営士課程宿泊研修
- 5日 東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓練
- 6日 重量品専門部会経営者研修会
- 7日 経営者実務セミナー
- 9日 広報・情報委員会▽海上コンテナ専門部会定例業務委員会▽同東京港周辺道路における清掃活動▽適正化事業指導委員会▽木材専門部会役員会

日程ボード

【12月15日】

- 5日 14時 環境委員会正副委員長会(東ト総合会館) 14時30分 同委員会(同) 15時40分 グリーン・エコプロジェクトトッププラナーセミナー(同)
- 6日 13時30分 広報・情報小委員会(東ト総合会館) 16時 ダンブ専門部会全体会議(同)
- 8日 14時 物流政策委員会(東ト総合会館)
- 10日 首都直下地震防災訓練▽原価意識強化セミナー
- 11日 東ト協セーフティ・アワード2017
- 12日 女性部女性経営者研修見学会(13日)
- 13日 栃ト協女性経営者と東ト協女性部との意見交換会▽正副会長会
- 14日 青年部海外研修(18日)▽過労死等防止・健康起因事故防止セミナー
- 15日 引越専門部会インターネットに係わる研修会
- 12日 15時 東京都交付金事業審議委員会(東ト総合会館) 17時 物流専門紙記者懇談会(同)
- 13日 15時 理事会(第一ホテル東京) 17時 国土交通大臣表彰受賞祝賀会(同) 16時30分 食糧専門部会砂糖委員会(東大紅)
- 12日 15時 東京都交付金事業審議委員会(東ト総合会館) 17時 物流専門紙記者懇談会(同)
- 13日 15時 理事会(第一ホテル東京) 17時 国土交通大臣表彰受賞祝賀会(同) 16時30分 食糧専門部会砂糖委員会(東大紅)

新会員

- 【大田支部】株式会社PストランスポーツII大田区矢口3の8の22▽03・54823720▽一般貨物運送(普通車21台)、軽貨物運送、利用運送
- 【杉並支部】株式会社エス・イー・ジェイII杉並区松庵3の41の1▽03・32473961▽一般貨物運送(普通車5台)
- 【新入】俊正氏(山新運輸代表取締役・城東支部)11月10日死去。73歳。通夜は11月17日、告別式は翌18日、いずれも千葉県市川市の徳願寺会館で。喪主は妻、町子さん。
- 【内田】榮一氏(内田運送代表取締役・深川支部)11月15日死去。90歳。通夜は11月17日、告別式は翌18日、いずれも江東区南砂の平安南砂で。喪主は妻、榮子さん。

お悔やみ  
申し上げます

## 「トラックの日」 児童絵画 コンテスト

### 「緑を増やす トラック」

古田 絢音さん  
(下鎌田東小6年)

### 最優秀賞



最優秀賞の古田さん(左)と千原会長

「トラックの日」児童絵画コンテストは、業界が社会との共生を目指し、交通事故防止や地球環境保全に努めていることを、広く理解してもらう



目的で実施したもの。都内の小学生を対象として、「安全なトラック」「環境にやさしいトラック」「未来のトラック」をテーマに募集し、237作品の応募があった。

表彰式は、各入賞者と保護者を招いて行われ、最優秀賞(東協会長賞)は、江戸川区立下鎌田東小学校6年生の古田絢音さんの作品「緑を増やすトラック」が受賞。千原会長が表彰状と副賞を贈った。

優秀賞(東運支局長賞)は、低・中・高学年の部各3位までの計9人の児童を表彰。東運支局長の渡邊支局長がそれぞれ表彰状と副賞を贈った。

また、佳作(東ト協会賞)は10人の児童を表彰し、江森副会長が表彰状と副賞を手渡した。

受賞者は次の通り(カ

- 表彰式は、各入賞者と保護者を招いて行われ、最優秀賞(東協会長賞)は、江戸川区立下鎌田東小学校6年生の古田絢音さんの作品「緑を増やすトラック」が受賞。千原会長が表彰状と副賞を贈った。
- 優秀賞(東運支局長賞)は、低・中・高学年の部各3位までの計9人の児童を表彰。東運支局長の渡邊支局長がそれぞれ表彰状と副賞を贈った。
- また、佳作(東ト協会賞)は10人の児童を表彰し、江森副会長が表彰状と副賞を手渡した。
- 受賞者は次の通り(カ
- ッコ内は学校名・学年、敬称略)
- 〔最優秀賞〕  
古田絢音(江戸川区立下鎌田東小6年)
- 〔優秀賞〕  
〇低学年の部/第1位 田中柚香(新宿区立鶴巻小2年) 〇第2位 熊坂珠乙(葛飾区立白鳥小1年) 〇第3位 西尾柊哉(新宿区立西新宿小1年) 〇中学年の部/第1位 柏山竜澄(新宿区立西新宿小4年) 〇第2位 野口つばみ(同4年) 〇第3位 福島美羽(同4年) 〇高学年の部/第1位 田澤光希(新宿区立西新宿小6年) 〇第2位 林博(江戸川区立新田小5年) 〇第3位 西澤巧翔(町田市立藤の台小5年)
- 〔佳作〕  
松丸真梨愛(江東区立第二砂町小1年) 〇薛弥生(葛飾区立白鳥小2年) 〇田中柚希(新宿区立鶴巻小2年) 〇堂山桜(港区立御成門小2年) 〇山田愛瑠(新宿区立西新宿小2年) 〇北川せり(同3年) 〇齊藤十磨(足立区立西伊興小3年) 〇上妻光輝(新宿区立西新宿小4年) 〇麻績春空(同5年) 〇綿谷実佳(江戸川区立鎌田小6年)

「無事故無違反」を呼びかける江森委員長



東京都トラック協会は11月11日、「セーフティ・アワード2017」を開催し、平成29年度ベストドライバーコンテストや「トラックの日」児童絵画コンテストなどの表彰式を行った。

## ベストドライバー 最優秀者賞は 田中 吾一さん(三興運輸)



最優秀者賞の田中さん(右)と渡邊支局長

ベストドライバーコンテストは、ドライブレコーダー(DR)で収集した、日常の運転業務(2日間)で計8時間以上)における運転操作データと画像データ(前方と運転席内)を分析・評価するもの。

大型・トレーラの4部門で行い、25支部から計272人が参加した。運転操作と画像データによる評価(100点満点)に加え、自動車安全運転センター発行のSDカードを所持する場合は5点加算し、計105点満点で採点し、上位入賞



千原会長(中央)とベストドライバー各部門の優勝者(左から柴崎さん、古田さん、田中さん、明石さん)



鈴木支部長(右)と千原会長

## 最優秀支部賞は 葛飾支部が受賞

本・明石栄一さん(深川支部)。各部門優勝者に対し、千原武美会長が表彰状と副賞を授与。各部門2位入賞者には運輸安全委員長の江森副会長、同3位には同委員長代理の鈴木健之副会長が、それぞれ表彰状と副賞を贈った。

表彰状と副賞を贈った。さらに、特別賞としてベストフォーム賞・安全確認賞・ユニーク賞表彰を行い、運輸安全委員会の新倉康副委員長がそれぞれ表彰状と副賞を授与した。

団体表彰では、参加者の平均点が最も高かった葛飾支部が最優秀支部賞を受賞し、千原会長が鈴木健之副会長に表彰状などを贈った。

## 警視庁SDコンテスト



警視庁交通部主催の平成28年度「セーフティドライバー・コンテスト」表彰が行われ、参加チームの達成率などが優秀だった9支部に対し、交通部長感謝状が贈られた。

感謝状を受けたのは、千代田・中央・港・北・深川・墨田・多摩各支部、および原島支部長(右)と金子管理官



## 交通安全教室

各表彰式に先立ち、警視庁のマスコット「ピーポくん」と女性警察官による交通安全教室を開催。

飛び出しなどの危険な行動について、女性警察官が質問し、「ピーポくん」が答えるクイズ形式で行われ、交通ルールを守って事故に遭わないよう呼びかけた。



## 交通遺児へ 寄附金贈呈

会員事業者有志から、東京都トラック交通遺児等助成財団に対し、寄附金の贈呈が行われ、有志代表の中村克敏氏(中彦運送、写真)が、交通遺児等助成財団の千原会長(東ト協会会長)に寄附金を手渡した。一方、中村氏に対し感謝状が贈られた。

## 交通事故ゼロへ 安全宣言



各コンテストなどの表彰式の後、運輸安全委員の佐藤正樹氏(写真)が事故防止の徹底を期して「安全宣言」を行った。

依然として、悲惨な事故が後を絶たない現状を踏まえ、「いつしよに安全」を合い言葉に一致団結し、より一層の交通安全活動や社会貢献活動を通じ、交通事故ゼロを目指す」旨、宣言した。

表彰式では、各入賞者の運転中の画像を交えながら、運輸安全委員の鳥ノ海学副委員長が日常の運転業務で心掛けていることなどをインタビュース、紹介した。

上位入賞者は次の通り(カッコ内は会社名・支部名、敬称略)

〔最優秀者賞〕  
田中吾一(三興運輸本社営業所)

〇安全確認賞/声出し呼称賞 今北亮彦(ギンテック)、山口篤(田中商事) 〇指先呼称賞 明石栄一(N.S.ロジ東日本)、吉田栄次(多摩運送)

〇ユニーク賞(クルマは急に止まれないで賞) 〇中川一美(トヨーエキスプレス東京営業所)

〔最優秀支部賞〕  
葛飾支部

第1位 田中吾一(三興運輸本社営業所) 〇第2位 唐木春生(日本通運東京コンテナ事業所) 〇第3位 渡邊善智(稲垣運輸)

〔トレーラ部門〕  
第1位 明石栄一(N.S.ロジ東日本) 〇第2位 伊藤繁宏(ロジパルエクスプレス平和島営業所) 〇第3位 剣持邦昭(商運サービス)

〔特別賞〕  
〇ベストフォーム賞 唐木春生(日本通運東京ベイエリア支店東京コンテナ事業所)

## トラック事故速報

死亡事故

問い合わせ先：東京都トラック協会 運行管理部 ☎03-3359-3618

|     |                                                    |
|-----|----------------------------------------------------|
| 日時  | 10月31日(火) 12時03分頃発生(晴天)                            |
| 場所  | 渋谷区内(国道246号)                                       |
| 当事者 | 自転車(女性48歳死亡)×事業用大型貨物車(50歳代前半)<br>×事業用大型貨物車(50歳代後半) |
| 状況  |                                                    |
| 概要  | 自転車が停止中の①事業用大型貨物車と衝突後、②事業用大型貨物車と衝突。                |

|     |                                                 |
|-----|-------------------------------------------------|
| 日時  | 11月6日(月) 3時10分頃発生(晴天)                           |
| 場所  | 大田区内(高速湾岸線西行〈多摩川トンネル手前〉)                        |
| 当事者 | 事業用中型貨物車(男性48歳死亡)×<br>事業用大型貨物車(運転者不在、停車中)       |
| 状況  |                                                 |
| 概要  | 単独事故で対向車線に飛び出し、停車中の事業用大型貨物車(運転者不在)に事業用中型貨物車が衝突。 |



国土交通省自動車局は、11月14日付で全日本トラック協会など自動車関係団体に対し、「ホイール・ボルト折損等による大型自動車等の車輪脱落

の防止等について」を通知し、車輪脱落防止のための点検を徹底するよう求めた。

## 国交省

## 車輪脱落事故防止へ点検徹底

平成28年度には、大型自動車(車両総重量8ト以上など)の車輪脱落事故が56件(このうち人身事故3件)発生し、前年度より15件(36・6%)増加している。特に11月から3月にかけて車輪脱落事故が36件と多く、全体の約64%を占めている。

今年10月には中国自動車道で、大型トラックのスペアタイヤ脱落に起因する死亡事故も起きている。こうした事故を踏まえ、脱落事故が多い冬期を控えて、改めて点検の徹底を指示した。

## 大型車通行適正化 関東地域連絡協議会

## 過積載、合同取り締まり 違反車48台に指導・警告

国土交通省や各道路管理者などで構成する「大型車通行適正化に向けた関東地域連絡協議会」は11月9日、1都3県の各警察と連携して、過積載車両の「首都圏大規模同時合同取締り」を実施した。首都圏に流入・通過する過積載車両に対し、道路法・道路交通法・道路運送車両法の3法同時取り締まりを行ったもので、首都高速をはじめ各高速道路の料金所など18か所を実施した。その結果、117台の

## 事業用貨物車 死亡事故件数

## 10月累計214件 各車種とも増加

警察庁の交通事故統計によると、事業用貨物自動車第一当事者の死亡事故件数(軽貨物車を除く)は、10月末累計で214件と前年同期比4件(1・9%)多い。これまで前

年を下回って推移していたが、小幅ながら増加に転じた。車種別にみると、大型車が122件で同2件(1・7%)、中型・準中型・普通車は合計92件で同2件(2・2%)それぞれ増加している。死亡事故が最も多い大

## 「青だけど 車は私を見てるかな！」

## 交通安全の 特徴

平成29年10月末現在の都内全域の交通事故発生件数(本年累計)は26,814件で、前年同期比514件増加し、死者数は135人で同8人の増加となった。

営業用貨物車の関与事故(「違反別」表の下段「注参照」発生件数(本年累計)は、2,433件で前年同期比

6件増加し、死者数は15人で同1人の減少となった。事故類型別では、右左折時の車両相互事故が295件で前年同期と同数で、死者数は1人だった。違反別では、交差点安全進行義務違反による関与事故件数が290件で、前年同期比31件の増加となっている。

## 違反別 営業用トラック関与の交通事故

平成29年10月末(29年累計)

|      | 安全不確認       | 前方不注意 | 交差点安全進行妨害 | 歩行者妨害 | 一時不停止 | ハンドルブレーキ無視 | 信号無視 | 徐行違反 | 右左折 | その他 | 計   |
|------|-------------|-------|-----------|-------|-------|------------|------|------|-----|-----|-----|
| 大型   | 1当件数        | 117   | 83        | 23    | 8     | 0          | 18   | 7    | 0   | 59  | 315 |
|      | 関与事故件数      | 113   | 64        | 27    | 8     | 0          | 14   | 7    | 0   | 117 | 350 |
|      | (前年比)       | +11   | +12       | +7    | +2    | ±0         | -5   | +1   | ±0  | ±0  | +14 |
| 中型   | 1当件数        | 107   | 117       | 38    | 10    | 1          | 22   | 12   | 0   | 84  | 391 |
|      | 関与事故件数      | 112   | 102       | 48    | 10    | 1          | 22   | 11   | 0   | 203 | 509 |
|      | (前年比)       | -74   | -76       | -19   | -5    | -2         | -6   | -3   | ±0  | -1  | -72 |
| 準中型  | 1当件数        | 102   | 86        | 45    | 10    | 3          | 8    | 5    | 0   | 79  | 338 |
|      | 関与事故件数      | 100   | 78        | 48    | 10    | 2          | 8    | 5    | 1   | 154 | 406 |
|      | (前年比)       | -     | -         | -     | -     | -          | -    | -    | -   | -   | -   |
| 普通・軽 | 1当件数        | 291   | 167       | 141   | 33    | 12         | 31   | 21   | 1   | 2   | 158 |
|      | 関与事故件数      | 293   | 157       | 167   | 33    | 12         | 29   | 21   | 1   | 3   | 452 |
|      | (前年比)       | -40   | -32       | -5    | +2    | +2         | -22  | +5   | -2  | +2  | -66 |
| 合計   | 1当件数        | 617   | 453       | 247   | 61    | 16         | 79   | 45   | 1   | 2   | 380 |
|      | 関与事故件数      | 618   | 401       | 290   | 61    | 15         | 73   | 44   | 2   | 3   | 926 |
|      | (前年比)       | -3    | -18       | +31   | +9    | +2         | -25  | +8   | -1  | +1  | +2  |
| 死者数  | 大型貨物車(1当)   | 0     | 1         | 0     | 2     | 0          | 0    | 0    | 0   | 0   | 3   |
|      | 中型貨物車(1当)   | 0     | 1         | 1     | 0     | 0          | 0    | 0    | 0   | 0   | 2   |
|      | 準中型貨物車(1当)  | 2     | 1         | 0     | 0     | 0          | 0    | 0    | 0   | 0   | 3   |
|      | 普通・軽貨物車(1当) | 1     | 2         | 0     | 1     | 0          | 0    | 1    | 0   | 0   | 5   |

注：営業用貨物車の関与事故件数とは、第1または第2当事者のどちらか一方が営業用貨物車であった事故の件数をいう。ただし、第1および第2当事者がともに営業用貨物車であった事故は件数を1件とする。  
※ 表中の(前年比)は、関与事故件数のもの。  
※ 表中の発生件数の準中型(前年比)は、前年比較件数がないため、「—」とした。

## 『ご存知ですか?』

関交協の自動車共済は

# 損保各社の割引率を引き継ぎます

掛金制度改定で一段とご利用しやすくなりました。  
お気軽にお問い合わせ下さい。

●他社からお切替のご用命は営業部まで

☎ 03-5337-1753  
Fax 03-5337-1767



関交協  
関東交通共済協同組合

☎160-0023

東京都新宿区西新宿7丁目21番20号

☎ 03-5337-1750 Fax.03-5337-1765

http://www.kankokyo.or.jp/





**東運支局**  
**陸運関係従事者  
運行管理者表彰**  
29年

東京運輸支局は11月15日、品川区の同支局1階会議室で、平成29年度「陸運関係従事者並びに自動車運送事業運行管理者・整備管理者表彰式」を開催した。

受賞者は、トラック部門などの陸運関係従事者・運行管理者合計で51人。このうち東京都トラック協会関係では、陸運従事者として、渡邊支局長は式辞で、受賞者の功績に敬意を表した上で、「陸運関係事業は国民生活・経済活動に欠かすことのできない重要な役割を担っており、一層の活躍をお願いする」と述べた。

東ト協関係13人に栄誉

安心の確保が最も重要な責務」と述べた。

来賓として、東ト協の江森東副会長が祝辞を述べ、「業界や会社、家族のために、それぞれの職場で自身の努力を注ぎ、今後、の受賞を目指す方々の鏡となり、一層の活躍をお願いする」と述べた。

東ト協関係13人に栄誉

安心の確保が最も重要な責務」と述べた。

来賓として、東ト協の江森東副会長が祝辞を述べ、「業界や会社、家族のために、それぞれの職場で自身の努力を注ぎ、今後、の受賞を目指す方々の鏡となり、一層の活躍をお願いする」と述べた。



**東ト協関係2人が受賞**

関東運輸局は11月7日、横浜市開港記念会館で、平成29年度「陸運関係従事者表彰式」を開催し、東京都トラック協会関係では、日本フレートライナー(千代田支部)の小林靖夫氏と鈴木幸雄氏が受賞した。

今年度の受賞者は、9事業部門合計で214人で、このうちトラック部門は14人。河田守弘局長が各部門の代表者に対し表彰状を授与し、トラック部門を

代表して、鈴木氏が受賞した。河田局長は式辞で、受賞者の職務への精励などをたたえ、「安全・安心の確保、労働者不足対策などの施策推進には、最前線で活躍する皆様の力が重要。今後も陸運事業の発展に貢献していただきたい」と述べた。

なお、来賓として、関東トラック協会の田中敏之常任理事(東ト協副会長)らが出席した。



**49回 全国ドラコン  
表彰状授与式**

全日本トラック協会は11月20日、港区の第一ホテル東京で、第49回全国トラックドライバー・コンテストの表彰状授与式を開催。総合優勝の日本通運北海道警送支店・佐藤亮介さんに、国土交通省の早川治大臣官房審議官が内閣総理大臣賞を授与したほか、各部門上位入賞者の表彰が行われた。

総合優勝の佐藤さん(左から2人目)と各部門優勝者

**東ト協・全ト協  
過労死・健康起因  
事故防止セミナー**  
対策や予防法学ぶ

東京都トラック協会と全日本トラック協会は11月14日、東ト総合会館で「過労死等防止・健康起因事故防止セミナー」を開催し、多くの会員事業者が参加した。

陸上貨物運送事業労働災害防止協会東京都支部会、東京産業保健



総合支援センターとの共催。

厚生労働省の「過労死等防止対策白書」によると、脳・心臓疾患の労災補償状況は、請求・支給決定件数とも「道路貨物運送業」が最も多い。また事業用トラックの交通事故では、ドライバーの健康状態に起因する事故が増加傾向にある。こうした状況を踏まえ、セミナー第一部では、東京産業保健

総合支援センター相談員・荒川区医師会長の土屋謙氏が、「トラック運送事業における過労死等防止及び健康起因事故防止対策」と題して講演。過労死と健康起因事故の主な原因について解説し、その対策や予防方法などについて説明した。

第二部では、陸災防本部安全管理士の堀野弘志氏が、「トラック運送事業における過労死等労災事例及び労災補償等について」と題して講演した。



**東ト協関係13人に栄誉**

安心の確保が最も重要な責務」と述べた。

来賓として、東ト協の江森東副会長が祝辞を述べ、「業界や会社、家族のために、それぞれの職場で自身の努力を注ぎ、今後、の受賞を目指す方々の鏡となり、一層の活躍をお願いする」と述べた。

東ト協関係13人に栄誉

安心の確保が最も重要な責務」と述べた。

来賓として、東ト協の江森東副会長が祝辞を述べ、「業界や会社、家族のために、それぞれの職場で自身の努力を注ぎ、今後、の受賞を目指す方々の鏡となり、一層の活躍をお願いする」と述べた。

**東ト協  
全ト協  
原価意識強化  
セミナー**

東京都トラック協会と全日本トラック協会は11月10日、東ト総合会館で、平成29年度「原価意識強化セミナー」を開催し、近代経営システム研究所の森高弘純代表取締役社長が講演した。

セミナーは実践的に原価計算の手法を学び、運賃交渉力や生産性の向上などを図るため、昨年に続き開催したもの。

冒頭、あいさつに立った鈴木健之副会長(経営教育委員長)は、「標準貨物自動車運送約款が改正

され、運賃と料金が明確に区分された。規制緩和以降、運賃は下落してきたが、適正収受の方向へ動いており、何とか適正な運賃を勝ち取っていきたい。そのためには原価計算が必要」と強調した。

セミナーは3部構成で行われ、基礎編では車両単位の原価計算の方法について説明し、計算機を使って演習を実施。実践編ではベースとなる固定費・変動費から、輸送特性や業態別など様々なパターンに応じた原価計算について解説した。

森高氏は、標準運送約款の改正を踏まえ、附帯作業や荷主都合による待機時間に関する原価計算のポイントなどについて説明した。

さらに、強化編では原価計算データを活用した運賃交渉や、生産性の向上に向けた取り組みなどについて研修した。

**向  
動  
ファイル**  
◇10月分◇

●東京都最低賃金、前年度より時間額26円引き上げられ、同958円に改定される(1日)

●厚生労働省、29年版「過労死等防止対策白書」を公表。特に自動車運送従事者の実態を調査・分析し、トラック運転者の長時間労働の要因となっている、荷主との取引環境を改善する必要があると指摘する(6日)

●国土交通省、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」特別仕様ナンバープレートの交付を開始する(10日)

●全日本トラック協会、国土交通省と「標準貨物自動車運送約款」などの一部改正を公布する。「標準貨物自動車運送約款」改正に伴うもので、いずれも11月4日から施行する(30日)

●東京都トラック協会環境委員会、平成29年度第2回委員会、グリーン・エコプロジェクト(GEP)事業の推進体制を見直し、参加費の一部を事業者負担とすることを決める(27日)

●国土省、中国自動車道におけるスペアタイヤ落下による死亡事故を受け、全日本トラック協会に対し、大型トラックの緊急点検実施を通達する(27日)

●国土省、「標準貨物自動車利用運送約款」などの一部改正を公布する。「標準貨物自動車運送約款」改正に伴うもので、いずれも11月4日から施行する(30日)



**運賃交渉力の強化へ**

東京都トラック協会と全日本トラック協会は11月10日、東ト総合会館で、平成29年度「原価意識強化セミナー」を開催し、近代経営システム研究所の森高弘純代表取締役社長が講演した。

セミナーは実践的に原価計算の手法を学び、運賃交渉力や生産性の向上などを図るため、昨年に続き開催したもの。

冒頭、あいさつに立った鈴木健之副会長(経営教育委員長)は、「標準貨物自動車運送約款が改正

お西さま(西の市)がくると、もうすぐ師走と感ぜさせる。年末への風物詩だ。今年は11月30日が三の酉。内閣府の景気動向指数によると、暫定的だが、9月で景気拡大が58か月続いており、戦後2番目に長く続いた「いざなぎ景気」(昭和40年11月〜45年7月)を超えるといわれている。正式な認定は、内閣府の有識者会議で検討して判断するが、ともかく景気はいいと数字が示している。そうならば、お西さまの熊手はどうしようか、と気になるところ。



▲須賀神社



▲花園神社の「西の市」

## もうすぐ師走の風物詩

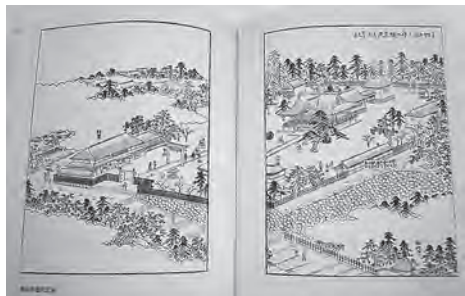
花又村の方を「本とり」、浅草田圃を「新とり」と呼んだ。明治時代に入っても、お西さまは浅草だけではなく、これに次いで深川八幡、四谷・須賀神社、新宿北裏町・花園神社などが賑わう神社として続いている。須賀神社は東京都トラック協会の近くにあって、『江戸名所図会』に「四谷牛頭天王社」として紹介されている。

当時の鷲大明神の様子は、日ごろは参詣する人がなく、ただ、お西さまの日は富貴開運を祈る人で「群詣す」とある。千住辺りから人出が始まり、道を歩けないほどの混みようで、田の畔道の間で博打をする者もいるほどだったという。ところが、博打が禁止され人出が減ってしまった、花又村の賑わいは、江戸時代も後半になると、祭礼日といっても人出が多いということとはなくなった。それとは反対に、下谷の浅草田圃の西の市(いわゆる浅草のお西さま)に人気が集まってきた。

1771(明和8)年ごろから流行期に入って、今日までその地位は動かない。主客交代を受けてか、熊手、芋頭、栗餅が特に珍重された3種で、熊手は幸運をかき集め、芋頭は人の頭に立つとか、子だくさんの縁起物として、栗餅は農村のハレの食物、また畑作儀礼の供物に用いられたのが、都市の町人にとつての土産物となった。

熊手、芋頭、栗餅が特に珍重された3種で、熊手は幸運をかき集め、芋頭は人の頭に立つとか、子だくさんの縁起物として、栗餅は農村のハレの食物、また畑作儀礼の供物に用いられたのが、都市の町人にとつての土産物となった。

## 福をかき集める熊手を大きくとの願いを込めて



▲『江戸名所図会』四谷の須賀神社の様子

お西さまというが、鳥はどこに出てくるのだろうか。『東都歳時記』には、花又村鷲大明神には「参詣のもの鶏を納む。祭り終わりに浅草寺観世音の堂前に放つ」とある。この鶏はチャボと呼ばれる種類で、その奉納をしたのではないかと。その根っこには、鳥は神使いとしての信仰があったのかもしれない。

西の市の大鳥神社の祭神は天穂日命で、野見宿禰の先祖であり、その野見の姓は土師であることから、「はしがなまつてわし」となり、さらに、鷲が大鳥であることから大鷲と書いて大鳥と読ませ、西の日となったという面白い説もある。

景気は拡大が続いているというものの、「実感を伴わない」ともいわれる。威勢のいい掛け声や手締め手拍子聞きながら、さて、熊手をどう選ぶか、また思案してしまう。

## ポケット



まちかど写真家 筑峯 総太

首都高速湾岸線・大井料金所付近の陸橋から眺めると、トラックの流動から物流の活性化がうかがえる。



が重要である。

政府も、物流事業の今後を危惧している。発着荷主と物流事業者、関係機関を巻き込んだ協議会での検討や取り組みに注目したい。

今年7月、トラック運送事業者の法令違反行為に荷主の関与が明らかとなった場合、荷主名を公表する、新たな荷主勧告制度の運用が開始された。また11月4日から、トラック運賃・料金の収受ルールが変わった。

## トラックが変わる

標準貨物自動車運送約款などが改正され、運賃が運送の対価であることを明確化し、附帯業務の料金を別立て化するものだ。コストに見合う適正運賃を受受できれば、業界が直面する諸課題の大方は、クリアできるといふ意見も多い。

先般、ツイッターで荷主勧告と約款改正の話をついとした。みるみるうちに「いいね」のリツイート数が上がっていく。タイムリーなネタに関心と共感を示す人の多さに驚いた。

とりわけ、運転者からの力強いエールが多かったのは、現場を肌で感じていることの表れでもある。社会的使命を達成するには、安全輸送と健全経営のための適正運賃収受、という二本柱が欠かせない。



## 『せごどん』縁の地



西郷山公園

鳥羽・伏見の戦いなど、東京や京都での話の場面もあるようです。さて、舞台となる鹿児島には、郷土の誇りとして市内に約8坪の巨大な像が立っています。西郷隆盛像といえ、上野公園にある銅像が有名ですが、ほかにも都内には、西郷隆盛屋敷跡(中央区)や西郷隆盛・勝海舟会見之地碑(港区)なども存在しています。

西郷山公園

住所: 目黒区青葉台2の10の28



## 三丁目

少子高齢化が際立って進む昨今だが、「あれっ」と思うのは、テレビ番組で地方の家族を紹介すると、決まって大家族である。じいちゃん、ばあちゃんを頂点に家族、親類など大勢が顔をそろえるのは例外的なのかもしれないが、「日本も捨てたものではない」と思ったりする。ただ、これは大都市と地方との差がそうさせているのも事実で、東京では極端に世帯規模が小さくなる。統計によれば、昭和30年代には平均4.14人であった世帯規模が、現在では2.42人と少なくなっている。おまけに夫婦だけの世帯がどちらか一人欠けて、独居世帯も多くなっている。何とも寂しい現実である。

◆平成12年の国勢調査以降、わが国では0〜14歳世代と65歳以上の人口割合が逆転し、今では65歳以上が4分の1を占めている。まさに少子高齢化の社会になった。世界的にも少子化の理由の一つには婚姻事情もあり、適齢期に結婚しない人達が増えていることだ。こればかりは「困った」では済まされないだけに、非常に「困った」ことである。